

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 2 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2171200344		
法人名	社会福祉法人慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム本郷		
所在地	美濃加茂市本郷3丁目20番地15 (電話) 0574-23-0345		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年11月6日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広い幹線道路から中に入り、静かで比較的新しい住宅街にある。地域に高校や幼稚園があり、また、母体法人の医療機関や大型スーパーにも近い。鉄骨平屋造りの建物で、事務所を挟んで各ユニットがあり、リビングの天井は高く、採光も良く、ゆったりとした生活空間が広がっている。開設以来4年が経過し、自治会の「子供みこし」がホームを訪れたり、高校の野菜販売の連絡を受けたりする交流を行えるまでになり、地域に定着してきている。利用者はホーム内での役割をもったり、布を使った作品作りやおやつ作り、プランターでの野菜や花の世話と、楽しみを持ちながら日々暮らしている。年2回の家族会開催や毎月の利用者報告、運営推進会議への参加等で家族との交流を図っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 地域との関係づくりや他のホームとの交流が前回評価での課題であった。運営推進会議における地域自治会役員との交流、幼稚園や高校への積極的な働きかけの結果、互いに交流する関係が定着してきている。同業者との取り組みは、今後の課題として残った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者は、自己評価の作業は自分たちが提供しているサービスの振り返りの機会であると理解し、職員からの聴き取りや気づきを加え記載した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 利用者の家族、自治会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員とホーム関係者が参加し、奇数月に1回開催している。ホームの運営や利用者の状況報告、地域との連携への取り組みを話し合っている。また、運営推進会議のメンバーが防災訓練に利用者と共に参加し、利用者の暮らしを直接見てもらう取り組みを行った。今後は、地域住民にも参加してもらえるよう働きかけたいとしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族から職員に気さくに意見や苦情を出してもらえるように、家族の来訪時に担当職員がゆっくり話を聞く等、信頼関係づくりに取り組んでいる。面会者記入用紙にも意見が書けるようにした。苦情相談窓口は、重要事項やホーム内に開示している。また、ホーム独自の第三者評価委員会を作り、専門家や各地域からの意見を、運営に反映するシステムが機能している。
重点項目③	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	利用者は、日常の散歩や買い物等で地域と係わりながら生活している。地域役員の積極的な協力を得ながら、地域行事に利用者が参加したり、地域の子供がホームを訪問している。高校から野菜販売日が入り、高校へ出かけていくのが利用者の楽しみのひとつとなっている。

【情報提供票より】 (平成 20 年 8 月 18 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 13.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	28,500~ 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 18 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低 70 歳	最高 96 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木沢記念病院
---------	--------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型施設として、年度処遇計画に、「できる限り心のこもった援助を行う中で、新しい生活の場としてのホーム生活を確立させ、より尊厳のある生活ができるようにすること」を目指し、地域の協力を得、運営したいとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや月例の職員会議において理念の実現にむけたサービスの提供となっているか話し合い、確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設から4年が経ち、会議へ出席する地域役員を通して、地域からの理解と協力が定着してきた。地域への外出や近隣の幼稚園や高校への積極的な働きかけにより行き来が盛んになり、地域の夏祭りに利用者が参加したり、幼稚園児や高校生も訪問するようになった。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、今年度交代したばかりで、職員から聞き取り、気付いたことを加えて管理者が記入した。自己評価を通して自らが提供するサービスの振り返りの機会とした。	○	管理者の交代が毎年行われており、職員と提供したケアを振り返るためにも、全職員が自己評価に部分的にでも参加する取り組みも期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、自治会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員、ホーム関係者が参加し、奇数月に開催されている。利用状況、利用者の様子や地域との連携状況を報告している。防災訓練に参加してもらい、利用者の暮らしを直接見る取り組みも実施した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域サービスネットワーク会議が毎月あり、管理者が参加し、市の情報を得ている。成年後見制度の活用等について相談し、利用者の権利擁護の支援をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員1名が利用者2名を担当しており、毎月の「近況報告書」で、介護計画の実施状況や最近の様子を知らせ、また、家族記入欄を用意し、FAXでの返信を依頼している。家族の訪問が多く、その際、担当者が利用者の様子を詳しく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に窓口を明記し、面会受付カードに意見等の記入欄を設け、運営推進会議への参加を依頼し、意見を出す機会を作っている。また、年2回の家族会や法人内6グループホームの地域の代表や学識者で構成した委員会を作り、広く意見を求め運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者があると、職員の適正等を考慮するため、法人内6グループホームもあわせた人事異動となる。管理者の交代もあるが、利用者家族には、ホーム便りで知らせたり、訪問時に自己紹介をしている。	○	家族への報告はあるものの、家族からは短期間での交代と映り、残念の声がある。法人全体での職員配置を考慮した結果ではあるが、できる限り同じ職員での馴染みの関係づくりが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に研修委員会があり、計画的に研修を実施している。新任は毎月1回を1年間、3年経験者は中堅クラス研修、その後はスーパーバイザークラスとして研修を受ける。その他に法人の内部研修もある。また、外部研修は出張扱いで、勤務調整等を行い、職員が受講しやすい環境づくりをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人は、県内6ヶ所にグループホームを開設しており、各エリアで地域のネットワークをつくっている。エリア会議と称して、各エリアの管理者、職員が参加する交流がある。	○	法人以外の同業者とも、交流により他を知ることや意見交換、連携にも繋がるため、職員の交流を行われたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用の開始は、外部のケアマネジャーからの紹介が多いが、市からの紹介もある。事前に利用者の居宅を訪問し、顔なじみの関係づくりから始め、職員と利用者の相性も大切にし、利用者が馴染んでいけるよう時間をかけて支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	浴衣を再利用したのれん作り、運動会の用具作り、畑での花や野菜作りなど、職員も教えてもらいながら共にホームでの生活を支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のサービスを提供する中で、利用者との会話を大切にし、気付きや得た情報をシートに残し、担当職員に伝えたり、職員間で共有を図っている。本人の不安解消や精神的安定を図るため、家族からの情報や意見の把握に努めている。	○	本人や家族の希望を受け入れ、針、はさみ、薬等については、本人が管理しているが、危険なものの安全管理への配慮が行われるようなシステムづくりが期待される。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期受診、行事参加、年2回の家族会、介護計画作成時の担当関係者会議に出席等、意見を聞く機会を多く準備し、利用者のより良い暮らしのため、利用者と家族との継続的な関係を大切にした介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと状態変化時の見直しを行っている。住み替えが必要になった場合については、利用契約時に説明しているが、状態変化時には、出来るだけ本人や家族の意向に沿えるよう関係者とも話し合っ計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人関連機関の授産施設で作られたパンが温かいうちに食卓にのったり、法人のバスで日帰り旅行をするなど柔軟な支援がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医への定期的な受診については、家族に依頼している。緊急時は相談員同行での受診を支援し、家族へ連絡、報告している。救急搬送には、協力医の受け入れがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、基本的には住み替えを方針としており、契約時に利用者・家族に説明している。体調の変化がある場合は、他の利用者への影響等にも配慮し、主治医の診断に従い、本人・家族が納得できる対応を行っている。転居先等の紹介、入院先への情報提供等連携し、支援を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄においては、声掛けやケアが自尊心に配慮したものになるよう、職員間で話し合って実施している。利用者の個人情報の扱いは、職員一人ひとりから誓約書を取っており、扱いには細心の注意を払うよう、教育している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの大体の時間を決めているが、本人の体調や入居前の生活リズムに合わせた時間も取り入れている。入眠がうまくできない場合は、家族に伝え、かかりつけ医師の判断を仰ぎ、生活リズムづくりを支援する場合もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当の専門のパート職員が調理している。献立は利用者の希望も取り入れ、法人の栄養士が作成している。利用者は、野菜の皮むきや下ごしらえ、盛り付けや片付けに参加し、できた料理を皆で食べ、食事担当の職員も利用者と同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日で、1対1の支援で、20分程度を目安としているが、個人のペースに合わせた支援を行っている。1人で入浴できる人には、直接手を出さず、見守りとなるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できそうなこと、経験のあること等から、本人に合った役割がある。リビングの壁には、古い着物地、浴衣、シャツを利用して制作した、亀やたこ、えい、竜のおとしご等が飾られ、楽しい水族館になっている。宝船や雛飾りの制作等活動があり、楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏や冬などの季節にも配慮し、近くの公園、保育園、喫茶店等が目的地となった60～90分程度歩く3コース程の中から、ほぼ毎日散歩に出かけている。毎月の外出は、片道90分程度の距離で計画し、車で出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は一般家庭と同じく安全な生活を送るための基準としている。居室は内外どちらからも施錠ができ、夜勤者1人での2ユニット管理や個別の安全に考慮して夜間のみ施錠することもあるが、状態を観察し、医師にも相談した上で、できるだけ短い期間としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの防災訓練に、運営推進会議のメンバーである地域役員にも参加してもらい、利用者の様子を見てもらった。今後は、地域役員をとおして自治会の理解を得、地域にも参加・見学してもらえるように働きかけている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立で、野菜を多く取り入れたものとなっており、利用者の評判も良い。水分は、食事、入浴後、外出後、発熱時には、細かく摂取するように配慮している。また、いつでも自由に飲めるようにお茶を用意している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く、生活空間は広く明るい。好みの位置で一人座る姿もある。玄関横や横庭に花や野菜も作っており、季節感が窓越しに伝わってくる。畳の空間はゲームや洗濯物たたみに活用している。リビングは布で作った季節の作品で楽しい空間が作られている。ユニットごとに特徴があり、落ち着いて清潔感もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームの備え付けであるが、利用者宅からタンスやロッカーが自由に持ち込まれている。家族の写真や小さな仏壇がある等、個人の生活空間を作っている。浴衣を再利用したのれんを入りに掛けるなど、本人の好みを取り入れている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。